

大学入試の多様化時代における進路指導の意志決定

～第3の格差としての「ガイダンス・ディバイド」～

木村拓也(長崎大学)

1.問題の所在—格差研究の政策論的示唆の検証

格差研究によって経済格差が明らかになれば、その解消に奨学金などの経済的援助による福祉国家的教育政策が発動するように、例えば荻谷(2001)が指摘した階層間の意欲間格差が明らかになると、指摘した者の意図とは裏腹に、その後の教育政策の中で進路意識成熟の問題構図が心理主義化されてしまい、それを習得できなかった個人と、それを習得させられなかった教育機関に全ての原因が矮小化される形で回収されてしまう向きがある。近年、進路指導現場で重要視されてきた意欲を喚起する進路指導の処方箋の是非も含め、進路指導の制度論的/原理的要因を問い質すことが求められるのが昨今の状況であろう。

本研究では、高等学校における大学進学についての進路指導でどんな能力や入試区分が重要視されているかを問うために、意志決定分析手法であるコンジョイント分析とAHPを行う。既に、進路指導の意思決定についてはAHPを用いた鈴木(1996)の論考があるが、それが生徒の意思決定であるのに対し、本研究は進路指導教員の意思決定を研究の対象とする。調査は、日本全国の高等学校のうち、大学に進学実績のある3841校の進路指導担当教員を対象に、2010年3月に郵送法で行われた。回収率は、表1の通りである。

表1 地域別回収率

地域	送付数	回答数	回収率
北海道/東北	536	99	18.5%
関東	1283	153	11.9%
中部	714	147	20.6%
関西	571	77	13.5%
中国/四国	376	85	22.6%
九州	361	119	33.0%
合計	3841	680	17.7%

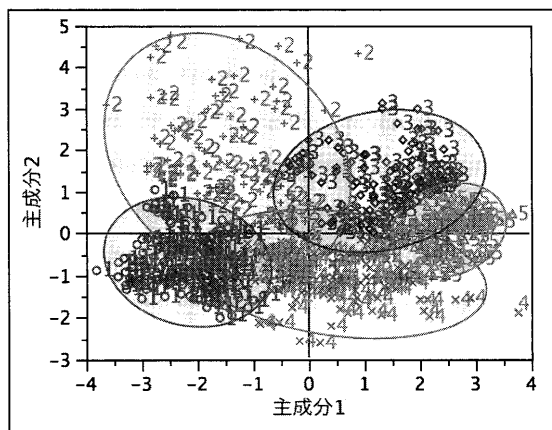


図1 主成分得点の散布図とクラスター分析結果

2.主成分分析・クラスター分析による高等学校分類

まず高等学校を進学実績や学校規模をもとに分類するために、1学年の定員数、大学進学希望者、大学進学希望率、国公私立大学の各入試区分(一般/推薦/AO)への進学割合の9変数について主成分分析を行った(表2及び図2)。そうした結果、第1主成分は一般入試か推薦/AO重視かの軸、第2主成分は国公立重視か私立重視かの軸となった。次に、固有値が1以上の第1主成分得点と第2主成分得点を用い、階層的クラスター分析(Ward法)を行った。第1主成分と第2主成分の主成分得点を二軸に散布図上に布置し、各クラスターのプロットを95%の楕円確率で囲ったのが図1である。図2の主成分負荷量プロットから図1の散布図を解釈すると、高等学校は、私立推薦/AO重視のCluster1(以下、C1)、国公私立推薦/AO重視のCluster2(以下、C2)、国公立一般/推薦/AO重視のCluster3(以下、C3)、私立一般重視のCluster4(以下、C4)、国公立一般重視のCluster5(以下、C5)に分類されたことが分かる。

表2 主成分分析の結果

数値: 主成分負荷量	第1主成分	第2主成分
定員	262	-302
大学進学希望者	471	-157
大学進学希望率	473	-013
国立一般	400	307
国立推薦	-098	571
国立AO	-027	504
私立一般	226	-304
私立推薦	-414	-255
私立AO	-306	-227
固有値	3.605	1.653
寄与率	40.058	18.370
累積寄与率	40.058	58.428

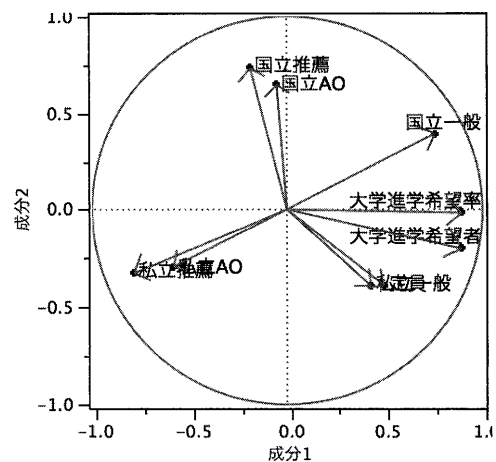


図2 主成分負荷量プロット

3.コンジョイント分析の結果

まず、自校の進路指導に適する入試方法・時期の組み合わせに順位をつけ、その背後にある各入試方法や入試時期への価値付けを測定するコンジョイント分析を行った(表3)。その結果、C5などが教科学力を基盤とする入試方法に重きを置いている一方で、C1では面接以外の入試方法に全く重きを置いていない。また、C1~3は11月出願(推薦時期)に、C4/5は、1月出願(一般時期)に重きを置いている。

4.AHPの結果

次に、どの能力を重視して各入試区分(代替案)で受験をさせているかを問う AHP を行った。C1/2 では「意欲・関心・適性」が、C3~5 では教科学力を基盤とした能力観の重要度が高く、進路指導方針が二極化している。C1/2 では推薦入試の C3~5 では一般入試の総合重要度が高い。

5. 結語—「ガイダンス・ディバイド」の地平

日本型トラッキング・システムの検討は、これまで、主に、教育課程編成上のトラッキングの観点から研究されてきた(例えば、荒牧2003など)。

本研究では、進路指導教員が抱く進路指導方針に関してコンジョイント分析とAHPを行った結果、「多様化した大学入試」制度の適及効果によるトラッキングの可視化を行うことができた。つまり、どの高校に入るかだけでなく、どの入試区分での受験を勧められる/希望するかによっても重視される能力が異なる。かたや教科学力が重視され、かたや意欲・関心・適性ばかりが重視される、進路指導の「ダブルスタンダード」状況が存在(異なる進路指導原理が混在)しており、中位から底辺層で教科学力を指導方針としない進路指導が横行することで「学力格差の生成メカニズム」となっている可能性が指摘できる。それは「大学入試の多様化」の意図せざる結果とも言え、日本型トラッキングの新たな側面として「ガイダンス・ディバイド(指導格差)」の存在を指摘できよう。

【参考文献】

- 荻谷剛彦 2001:『階層化日本と教育危機—不平等再生産から意欲格差社会へ』有信堂。
- 荒牧草平 2003:「都市高校生のカリキュラムトラッキング」『教育社会学研究』73号、pp.25-42。
- 鈴木規夫 1996:「AHPによる大学・学部選択における意志決定モデルの構成」『教育心理学研究』44、pp.287-295。

表3 高等学校進路指導教員が抱く進路指導方針に関するコンジョイント分析の結果*

左セル:部分効用値 右セル:相対的重要度		Cluster1 (N=165)		Cluster2 (N=91)		Cluster3 (N=113)		Cluster4 (N=158)		Cluster5 (N=82)	
マーク	課す	-3788	29.6	.3269	53.9	.7699	37.2	.5222	45.3	.6799	37.3
	課さない	.3788	%	-.3269	%	-.7699	%	-.5222	%	-.6799	%
記述式	課す	-4439	26.7	-.0742	24.0	.4757	32.4	.2880	28.5	.8994	33.7
	課さない	.4439	%	.0742	%	-.4757	%	-.2880	%	-.8994	%
小論文	課す	-1348	22.8	.0055	16.2	-.2146	20.0	.1503	15.7	.0244	25.5
	課さない	.1348	%	-.0055	%	.2146	%	-.1503	%	-.0244	%
面接	課す	.2121	12.8	.2198	5.5	.0310	9.0	.0427	8.2	.0671	2.5
	課さない	-.2121	%	-.2198	%	-.0310	%	-.0427	%	-.0671	%
出願時期	1月	.0258	8.1	.0687	0.4	-.4181	1.3	.12263	2.3	.14604	0.9
	9月	-.5167		-.8022		-.4668		-.3956		-.3994	
	11月	.4652		.6648		.13031		-.4351		-.5305	
決定係数		.9987		.9895		.9990		.9999		.9968	
重相関係数		.9994		.9947		.9995		1.0000		.9984	

*: 網掛けは、Clusterごとの各試験方法・時期における上位1位に行った。

表4 高等学校進路指導教員が抱く進路指導方針に関するAHPの結果**

クラスター	入試区分	国公立大学志望者への対応								私立大学志望者への対応							
		意欲 関心 適性	得意 科目 学力	五教 科七 科目	記述 型学 力	諸活 動実 績	調査 書評 定	総合 的重 要度	順位	意欲 関心 適性	得意 科目 学力	五教 科七 科目	記述 型学 力	諸活 動実 績	調査 書評 定	総合 的重 要度	順位
C1	一般	.063	.045	.040	.041	.037	.056	.283	3	.049	.039	.035	.037	.029	.042	.231	3
	推薦	.106	.059	.044	.043	.070	.093	.416	1	.123	.064	.047	.047	.078	.108	.467	1
	AO	.076	.043	.030	.033	.056	.062	.301	2	.076	.044	.031	.033	.056	.061	.302	2
C2	一般	.070	.060	.082	.062	.024	.037	.335	2	.069	.053	.069	.053	.024	.036	.306	2
	推薦	.094	.060	.058	.046	.060	.079	.397	1	.095	.063	.062	.053	.058	.079	.410	1
	AO	.063	.040	.036	.035	.044	.049	.268	3	.062	.043	.044	.038	.046	.051	.285	3
C3	一般	.078	.080	.134	.126	.028	.046	.493	1	.071	.077	.131	.123	.028	.045	.474	1
	推薦	.046	.037	.052	.048	.045	.054	.282	2	.053	.039	.054	.049	.047	.054	.298	2
	AO	.036	.030	.042	.040	.042	.036	.224	3	.037	.030	.043	.042	.040	.036	.228	3
C4	一般	.122	.087	.105	.101	.032	.052	.499	1	.110	.082	.098	.097	.029	.047	.463	1
	推薦	.071	.039	.040	.041	.043	.055	.289	2	.078	.044	.045	.044	.044	.059	.314	2
	AO	.049	.029	.029	.031	.038	.035	.212	3	.054	.030	.031	.032	.039	.036	.223	3
C5	一般	.128	.097	.160	.144	.044	.050	.623	1	.122	.093	.150	.139	.044	.049	.597	1
	推薦	.040	.027	.040	.039	.031	.029	.205	2	.041	.029	.045	.042	.032	.029	.217	2
	AO	.031	.022	.033	.033	.029	.022	.172	3	.035	.024	.038	.035	.030	.023	.186	3

** : 網掛けは、各能力の上位2位までを、総合的重要度、順位は上位1位に行った。